



1. ななきがききうるががしら※, はかかよりに主のみの  
2. ななきがききうるががしら※, はかかよりに主のみの  
3. ななきがききうるががしら※, はかかよりに主のみの  
4. ななきがききうるががしら※, はかかよりに主のみの



こ日えお えかにそ 聞きくす朽住い きちまし てなんや か死みい がの子ま や夜よに主 きはよの のありみ — — —



ぼけつも らゆみと んきをに み主と解よ かのきろ みもしこ のと主び みにのて もかもあ とえとれ にらんや

※なきがら：死者の肉体

主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、空中で主に会い、いつも主と共にいるであろう。テサロニケ前書 4:16, 17  
見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐい下さる。

黙示 21:3, 4

5

死<sup>し</sup>にいたる日まで 誠<sup>まこと</sup>を尽<sup>つ</sup>くしし→  
なが<sup>なみだ</sup>涙を主は またくぬぐいたもう。

6

あがなわれし今<sup>いま</sup> なれは安<sup>やす</sup>き得<sup>え</sup>ぬ。  
我<sup>われ</sup>らもときわの み<sup>す</sup>住まいをめざさん。

7

主の死はわれらに いかなる恵<sup>めぐ</sup>みぞ！  
我らをも死にぞ 勝<sup>か</sup>たしめたまえや。